

カボチャ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は栄養生長・生殖生長が同時に進行する型である。また、深根性で吸肥性が強い。そのため、多肥すると茎葉の過繁茂を招き、着果や果実の肥大が遅れる。栄養生長と生殖生長の均衡を保つように施肥量を決定する必要がある。本土壤では、基肥を少なくし、追肥重点の肥培管理が有効である。

〔病害虫・雑草防除〕

カボチャはネコブセンチュウには感受性だが被害がでにくい品種が多い。しかし、他作物との輪作を考慮し、対抗植物を栽培する等、適宜、線虫の防除対策を図る。うどんこ病等の地上部病害は発生初期に防除し、化学農薬の使用回数を減じる。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 1~2t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>微生物農薬を利用する。 (対象：うどんこ病、ネコブセンチュウ)</p> <p>対抗植物(クロタラリア、ギニアグラス等)を利用する。 (対象：ネコブセンチュウ)</p> <p>光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草など)</p> <p>育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など)</p> <p>マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを行うとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壤の改良を行う。</p>	